



月見草

## 第1602回例会報告

令和1年6月13日 (木) 曇り

## 会長告知

会長 北原 厚子

## ロータリーを顧みて

1602回 6月13日



## ☆幹事報告

## 【報告事項】

- ・財団ニュースが届きました。回覧します。
- ・諏訪湖創生ビジョンロゴマークの依頼が届きました。かける方は森山委員長に提出ください。

## その他

- ・溝口会員よりハンブルグ世界大会のお土産とバナーがあります。配布と回覧します。

## 理事会報告

先週例会終了後臨時理事会があり  
次年度のクラブ計画書を承認しました。

前夜からの雨が上がり、早朝いつもの道を歩いていると、何種類かのアジサイが咲き競っていて、何ともいえない光景がひろがります。私にとっては野鳥やさまざまな花との出会いに、四季折々の移り変わりが、またとない新鮮な場所になっています。

さて、日本でのロータリーの出来事を顧みると、いろいろなことがあります。1935年2月9日には、ポール・ハリスが当時の国際ロータリー会長のボブ・ヒル夫妻とともに来日。マニラで開催される第5回太平洋地域大会に向かう途中に立ち寄り、その折、ポール・ハリスは帝国ホテルの庭に月桂樹を記念植樹されました。また、1960年「世界中の青少年が共に活動できる組織をつくろう」という機運の高まりの中、RI理事会により初めてインターアクトクラブ発足を認証。それから3年後の6月27日、日本ではじめてのインターアクトクラブが宮城県の仙台育英学園高校IACで結成され、翌1961年5月28日～6月1日には日本で初めての国際ロータリー年次大会が東京・晴海ふ頭の国際見本市センターを中心に開催されました。また、1968～69年度には、日本から初めて米国生まれ、日本在住の国際ロータリー会長 東ヶ崎 潔氏が就任され、「世界市民 東ヶ崎潔」ジョージ・キヨシ・トガサキという

東ヶ崎潔RI会長のテーマは「PARTICIPATE」。これが今までで一番短いRIテーマです。日本語では「参加し敢行しよう」と訳されています。そして、2000年10月27～30日には、西太平洋地域ポリオ根絶京都会議が開かれ、ポリオ根絶認定委員から野生ウィルス「ゼロ」の認定が下され、現在、野生ウィルスの常在国は、アフガニスタンとパキスタンの2カ国だけになりました。1905年2月23日シカゴでロータリーが誕生して以来、今日までのロータリーの長い歴史の中で、先人の方々が育てきたロータリーのここからの世代に引き継いでいかなければならないという責任を感じました。と同時に、私も国際人にならなければいけないと痛感しています。最後に、ロータリーを顧みる、初心に帰るという意味も含めてポール・ハリスの言葉をいくつか挙げてみます。

「ロータリーが私たちにとってなにを意味するにせよ、世界は、その業績によってロータリーを知るのです。」

「愛は憎しみより力強いものです。憎しみの半分を愛に与えてください。もう戦争など起こらないでしょう。」

「励ましとは炎のようなものです。奉仕の薪をくべなければ、まもなく消えてしまいます。」

「あなたはロータリーのために何ができますか？何をしようとしていますか。」

♪出席報告		♪ニコニコBOX		♪今週のことば
会員数	38人	11名	23,000	
出席対象	38人	累計	556,000	
出席者数	23人	目標額	60万円	
出席率	60.5%	達成率	92.7%	
前回修正	81.6%			

## クラブ奉仕委員会 担当例会

### ～ 会員卓話 大澤会員 「わが人生に悔いなし」 ～



久しぶりに卓話の機会を頂きました。

4年前の卓話のテーマが「我が人生、悔いなし」であり、そのパートⅡにしました。

決して悔いがない訳でもない、悔いの残らぬ人生でありたいと精一杯生きてきたように思います。

そして何事も『人生焦らず、慌てず、諦めず忍耐強く』と自問自答の中で歩んできたように思います。

徳川家康の忍耐哲学は正に経営者にとって受け入れ人気が高いのも頷けます。「人の一生は重荷を負うて遠き道を行くがごとし、必ず急ぐべからず」は有名な遺訓であります。

「不自由を常と思えば不足なし」「心に望み起らば困窮したる時を思い起すべし」「堪忍は無事長久の基」と忍耐のすすめであり、ガマン、辛抱の連続であります。堪忍の反対語は短気。光秀は短気を起し信長を討って亡んだが、家康は忍んで天下取りになった。遺訓には「怒りは敵と思え」と言っている。そして自分は上杉謙信や武田信玄のような神がかりな軍略も又信長のような規制やしがらみを打破する突発力もない、又秀吉のような人を巻き込む人間的な魅力もない、ただ頂きを辿り頂点になりたいと思う「思いの強さ」を持続したことであり、天下人となり結果250年の礎を築いたことは衆知の通りであります。

私は今とても幸せを感じております。そして私の生まれ育った環境を思う時、今夢のような生活をしております。人間の幸せ感は一それぞれ違います。その幸せの価値観も違います。人は褒められた時喜び、又何かをやりとげ達成した時喜び、幸福であることに気づきますが、私の道を極めた人が申し上げるにはそれは人生の10%にすぎない、むしろ辛かったり苦しかったり、悲しいことが90%であると言います。考えてみると私も苦しみや辛かったことの事象は忘れません。昭和46年に会社を立上げ、50年と60年に1200万、1400万の負債をかかえ辛かった、苦しかったことを思い起します。それでもこうして仲間のロータリアンの前で卓話ができることの幸せ感に喜びを得ます。一生懸命に真摯に生きていけば誰かが

手を差しのべ支えてくれるのではないかと思います。『行く道は精進して忍びて終わりにて悔いなし』

悔いなき人生でありたいと願います。